

# Counseling Room

家庭問題カウンセリングルーム

第143回

公益社団法人 家庭問題情報センター 笠松 奈津子

## 結婚以来、夫と向き合って話合いをしてこないまま、離婚について考える女性

結婚期間20年以上の「熟年離婚」の割合が過去最高の21・1%となったという報道がありました。高校3年生の長男を筆頭に3人の子を持つ千春（仮名）さんは、もう間もなく結婚から20年。熟年離婚する女性の気持ちがよくわかる、他人事ではないといえます。

千（千春）

コロナ禍の2年間（相談時）、息

を殺すようにして必死で耐えてきました。子どもたちが感染しては大変だし、息抜きになるイベントもないし、ただただ、じっと真面目に過ごしてきた感じでした。ところが、行動制限がなくなり、テレワークも少なくなつて前の生活に近づいてきたら、私自身の中でこれまでの夫への不満がはじめてしまったみたいです。カ（カウンセラー） はじめてしまった不満というのは、コロナ禍で、家族が家にいることが多くなり、夫婦げんかが増えたためでしょうか。

千

家うちにいるストレスは確かにありました。でも、顔を合わせてけんかをしたり、暴言や暴力を振るわれたりということではありません。コロナのずっと前から積もり

積もってきたものです。夫とは音楽の趣味を通じて知り合い、結婚して私は子育てに追われましたが、夫は会社に勤めながら音楽を続けていたので、なんで私だけが……と、モヤモヤしたものがあつたのですが、2人目の子どもが小学生になり、パートタイムで働くようになった頃、近所に売り出された中古物件をローンを組んで買うと、目の前の生活に必死でモヤモヤを感じる暇もありませんでした。

カ

モヤモヤしたものがなくなつていったのでしょうか。

千

なくなつた訳ではないのですが、家を持つことで励みになったということもありますし、ママ友たちとホームパーティをしたりして楽しいこともありまして。気持ちが紛れていたのでしょうか。3

人目の子どもができ、3歳になつてから保育園に入れてパートを再開しました。しばらくはパートをしていましたが、夫は何度か転職したため思っていたほど収入が伸びず、私の会社のほうでも正社員にならないかという話をいただいたので、正社員に切り替えてもらいました。

カ

正社員となると、勤務時間も長くなり、夫婦で協力し合わないと育児や家事との両立が大変でしょう。

千

夫は自称仕事人間で、平日の帰宅時間は当てになりません。週末は趣味のバンドの集まりがあるので不在がちです。

カ

すべて千春さんお一人でなさつてきたのですね。

千

夫に協力を求めるのも面倒だったし、もともと料理も掃除も洗濯もできない夫

に教えるより一人でやった方が早いので、家の中のことはみんな私がやってきたのですが、働きながら家の中のことをやり、土日に子どもたちの部活や習い事で親の手伝いが必要なときはそれも私がやるという生活の中で、モヤモヤが復活してきたのです。

**カ** モヤモヤの自身は何なのでしょうね。

**千** 自分でもよくわからないのですが、私はこんなに一生懸命仕事や育児や家事をしているのに、夫はまるで家のことに関心がないみたいになっています。家のことは何の心配もせず、趣味の音楽を楽しんでいる。気遣いも何もないんですよ。その上、転職して収入が減ったというって、一時期、生活費も入れなかつたんです。もっとも、住宅ローンは彼の口座から引き落とされていますが。そんな夫に何も期待しなくなつたというのが正直なところですよ。

**カ** あなたの不満やモヤモヤを伝えたことはなかつたのでしょうか。

**千** どうせ言ってもわからないだろうという気持ちでしたね。反論されるのも怖かつたんだと思います。

**カ** 彼は千春さんの気持ちを察することなく過ごしていると感じているのですね。

**千** もしかしたら、私がほとんど口をきかないし、同じ部屋にいないように避けてもいるので、薄々察しているかもしれない。

**カ** そういう状態が続くと、ますます溝が深まってしまいますね。

**千** 子どもにとつてもよくない状況だとはわかっています。でも、受験期の子ども2人をかかえ、今すぐ離婚というわけにはいきません。まだローンが残る家の問題もあります。だからといって、子どもが3人とも成人するまで待つのは、「コロナ禍で耐えてきた今の私には限界に近いのです。

**カ** 伝え方が大切ですね。

**千** こんな気持ちのままだと「あなたは自分ばかり楽しんでるいい、どうしてあなたはわかつてくれないの」と、責めるだけになってしまいうらやましい。

**カ** どんな反応になるでしょうか。

**千** 「どうしろっていうんだ、何をわかれというんだ」と言われ、お互いに感情的になつて泥仕合になるでしょうか。

**カ** 千春さん自身がどのように思っているか、相手にどのようにしてほしいと思っているのかを伝えるといいのでしょうか。すべてを一度に解決するというのは難しいでしょうが、千春さんが今、いけばん重荷になっていることや、家の中のこと、お子さんのことなどで、一緒に背負ってほしいことを伝えて、話し合ってみることはできないでしょうか。

**千** あまり期待はできないですね。仕事が忙しいからと断られたり、それはおまえの仕事だと言われるかもしれません。

**カ** そのような話し合いをしても応じてもらえなかつたことが何度かあったのでしょうか。

**千** 私のほうで話を持ちかけてこなかったように思います。会社の若い人たちは夫婦で子育てや家事の分担を話し合っているようで、うらやましいと思っています。受験生がいますから、進路のことなど相談したいことは山ほどあります。長男の面談が近づいているのが、実は気が重いのです。

**カ** 学費のことなども大事な課題ですよ。子どもには愛情を持っているとは思いますが、それに、私がいないと、夫は子どもたちと話をしているようです。今、考えられるのは、長男の三者面談に行つてくれないか話してみることで、どうなるか不安ですが。

千春さんは、現状維持のままでは熟年離婚につながってしまうという危機感を持ちつつ、内心では解決につながる糸口がないかと思っていたのかもしれない。お子さんの受験という特に重要な時は、父母として協力ができるか、夫婦として向き合うことができるかの、好機といつていいのではないのでしょうか。

